

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	結城 緑	印
所属機関	国立がん研究センター 東病院 緩和医療科	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	ESAMO Asia 2019 欧州臨床腫瘍学会アジア大会 2019 ESMO: EUROPEAN SOCIETY FOR MEDICAL ONCOLOGY	
渡航期間	自 2019年11月21日 至 2019年11月25日	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	Poster display	
<p>研究成果 (要約: 800字)</p> <p>今回、未成年の子供を持つがん患者の「Cancer Parents」と呼ばれるオンラインのがんコミュニティに対して横断的なウェブベースの調査のサブ分析を行った。</p> <p>これまでの研究では、がん患者の経済的困窮において未成年の子供を持つがん患者に焦点を合わせたものはない。そこで本研究の目的は、未成年の子どもを持つがん患者の経済的困窮に影響を及ぼす要因を調査することとした。調査の結果、がん患者の35%に経済的困窮が認められた。単変量解析では、進行期、転移の存在、がんの再発、抗腫瘍薬の使用、フルタイムの仕事、仕事状況の変化、および収入の減少が、経済的困窮を経験している患者に関連していることが示唆された。</p> <p>この発表において行われたディスカッションでは、経済的困窮を真のエンドポイントとするのは今後の発展性にやや乏しいのではないかという意見があった。実際に、経済的困窮から何に繋がるのか、具体的には経済的困窮から起こりうる抑うつや QOL、孤独感などをエンドポイントとすることで、経済的困窮に対する今後の対応策を練ることができ、実臨床に生かせるのではないかと考えられた。</p> <p>また、家族背景について、夫婦共働きかどうか、子供の人数、世帯年収、教育レベルなど項目を増やすこと、さらに治療費は保険で支払われているのか、個人収入から支払われているのか、国による違いはどうか、などの意見があった。確かに、保険制度は国により大きく異なっており、それによる経済的困窮への影響はありそうである。教育レベルや年収の違いは、就労の変化が経済的困窮に有意差を持って認められたことを考慮すると、今後のさらなる研究において必要な項目と考えられた。</p> <p>ここ5年ほどは、子供を持つがん患者の経済的困窮についての報告はなく、その意味でも今回の研究テーマは今後注目されていくべき分野である。ディスカッションを通じてさらなる次の研究テーマにつなげたい。</p>		

